

平和の灯補修試験着手

県コンクリ診断士会 方法市に提案へ

県コンクリート診断士会(広島市中区)は25日、平和記念公園(同)にある「平和の灯」の補修に向け、適切な方法を調べる試験をボラ

ンティアで始めた。27日まで続け、市に補修や維持管理の方法を提

案する。

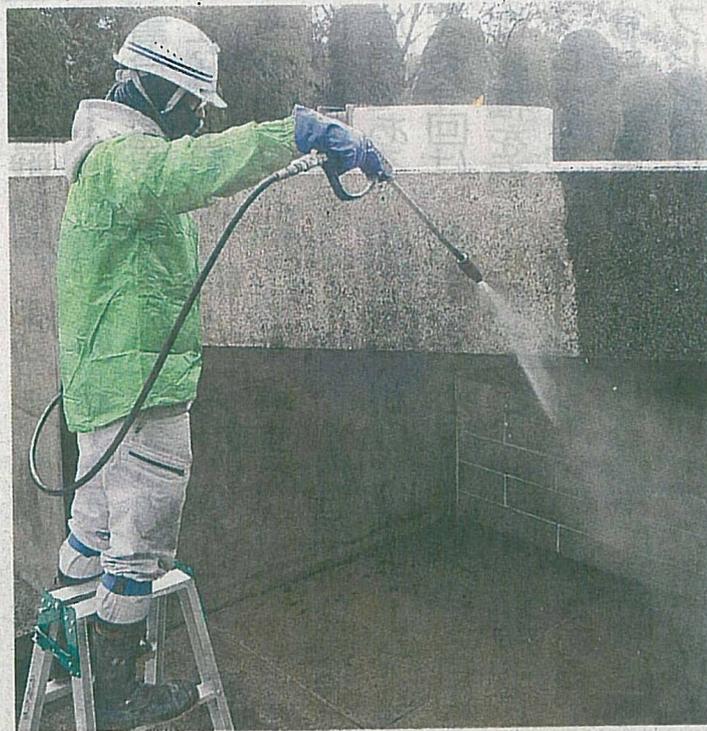
初日は約10人が参加。コンクリート製の台座に高圧洗浄機で水を吹き付け、表面の汚れやコケを落とす作業をした。26、27日は台座に汚れが付きにくくするための補修材など

を試して効果をみる。

4月末までをめどに市へ提案する。

平和の灯は、丹下健三氏の設計で1964

高圧洗浄機で「平和の灯」の台座の汚れを落とす作業員



年8月に完成。建設趣意書によると、炎は世

界の核兵器がゼロになるまで燃え続けるとされる。昨年5月に同会がした台座の調査では鉄筋がむき出しになっ

てさびたり表面がひび割れたりした箇所が複数見つかったという。

鈴木智郎副会長(66)は「世界中の観光客が注目する場所であり、広島技術者として維持の役に立ちたい。8月6日まで補修を終えるのが理想だ」と話した。(長久豪佑)